

1

説明文は稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』からの出題です。動物と植物の分類は所詮、人間の基準で決定したものに過ぎず、自然界には明確な境界線はないということに関して述べた文章です。

問一は、1 頁上段 5 行目「高度な進化」とは何かを説明する問題です。ここでいう「高度」というのは万物の霊長である人類を頂点とする進化の考え方ではありません。この部分の主語が「すべての生物」であることを踏まえます。すべての生き物がこの世の中を生き抜くために進化しているという訳です。さらに、「進化」についても説明する必要があります。この文章ではゴキブリやミツバチの例が挙げられていますが、それぞれ生き抜くために体の形や仕組みを変えていることが述べられています。これらをまとめます。解答例としては、「自然界を生き抜くためにそれぞれの生物が独自に身体の形や仕組みを発達させること。」などとなります。文末は「～こと。」とする必要があります。

問二は、選択肢の中から正しいものを選ぶ問題です。アリストテレスと仏教の考え方が述べられているのは 1 頁上段 26～34 行目です。この部分で、アリストテレスは生き物に階層があると述べたと紹介され、仏教の殺生の考え方では植物が別扱いになっていると述べられています。両者に共通するのは動物と植物を区別する考え方があるということです。どちらかがどちらかに影響を与えたということは述べられていません。正解は、エです。

アの「それによって植物がただ何気なく生きてると人々に考えさせるようになった」ということは本文では書かれていません。イは区分の仕方についての比較がこの部分の目的ではないことに加え、アリストテレスは進化という考え方を取ってはいません。ウは仏教がアリストテレスの考えに従ったということが文中にはありません。

問三は、1 頁下段 40 行目の空欄 3 に入る語句を選ぶ問題です。空欄直後の「穏やかな暮らし」を説明するものとしては「平和的」がふさわしいので、正解はウとなります。

問四は、2 頁上段 73 行目「その分類方法が確定しているわけではない」ことの原因を問う問題です。「分類方法が確定」しないのは、2 頁上段 76 行目にあるように「生物の世界にも明確な境界があるわけではない」からです。「ボーダレスの世界」である生物の世界を「人間が自分たちのために作った分類に過ぎない」のです。よって解答例としては、「何の境界線もないボーダレスの世界である自然界を、人間が分類し理解するために区分しているに過ぎないから。」などとなります。理由を問う問題ですので、文末は「～から。」「～ので。」

「～ため。」などの表現であることが求められます。

問五は、2 頁上段 87 行目「ミドリムシにとってはそれが当たり前の進化だったのだ。」において、「ミドリムシ」の進化が当たり前だという理由を述べる問題です。

この文章で言う「進化」とは生物が生き残るためにそれぞれが独自の方法で形態を変えていったことを意味します。ミドリムシにとっては生き残るために、植物と動物の両方の特徴を併せ持つことが必要だったと述べているのです。以上をまとめたものが正解です。

解答例としては、「どのように進化するかは自由であり、ミドリムシには生き抜くために動物と植物の特徴を併せ持つことが必要だから。」などになります。こちらも問四と同様、文末表現には注意してください。

問六は、空欄[A]から[D]に適切な接続詞を入れる問題です。[A]は、直前で人間を基準とした進化の考え方を示したあと、直後ですべての生物の進化が高度であると述べているので、逆接の意味であるエの「しかし」が入ります。[B]は、アリストテレスが生物には階層があると述べたことを紹介したうえで、そのまとめがなされる直前にあります。まとめと引き換えにつかう、イの「つまり」が入ります。[C]は、直後の 33 行目に「～生きていくことはできないが」と、逆接の文章がありますので、譲歩表現であるウの「もちろん」が入ります。[D]は、植物が生きていく大変さが前後で述べられていますので順接の意味であるアの「そして」が入ります。

問七は、漢字の書き取りです。楷書で丁寧に書く必要があります。

問八は、本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。正解はイです。アは、アリストテレスの考えが植物に対する考え方に影響を与えたとは本文に書かれていません。ウは、最後の「植物を尊敬してなくてはならない」という主張は書かれていません。エは、植物と動物を分類すること自体が無意味、とまでは述べられていません。

2

物語文は、辻村深月『1992 年の秋空』からの出題です。

問一は、4 頁上段 15 行目の空欄 1 に適切な漢字一字を入れる問題です。軽々しく引き受けることを意味する「安請け合い」という慣用表現の知識を問いました。解答は「安」です。

問二は、4 頁上段 27 行目「私が表情をなくす番だった。」のときの私の心情を説明する問題です。「表情をなくす」という言葉の意味をつかめるかがポイントになります。傍線部直前に「今度は」とあるので、その前の部分を考えてみると 4 頁上段 24 行目に「うみかの顔が、表情をなくした。」とあり、「私」が鉄棒の補助をすることを申し出たことにたいしてうみかがどうこたえていいのか戸惑ったことを言います。そして次にうみかが姉の「私」に対して面と向かって鉄棒の練習に付き合ってもらいたいと素直に言ってきたことに対して「表情をなくす」ことになったのです。ここではどのように反応し、対応したらよいのか一瞬わからなくなったことを説明できればよいものとします。解答例としては、「妹が自分を必要としていることをあまりに素直に表現したことに、どう対応してよいかわからずとまどう気持ち。」などとなります。

問三は、「虫」にまつわる言葉を使った慣用句の問題です。正解は、一がエ、二がア、三がオ、四がウ、五がイです。

問四は、5 頁上段 97 行目「ほっとしたような、残念なような気持ちになった。」を説明する問題です。二つの気持ちを説明することが求められています。まず、ほっとした内容を説明します。うみかが一人だけで練習を続けていないことを確認し、「安心」したことと考えられます。しかし、同時に自分が来るのを待っていない妹の行動に対して「残念」な気持ちにもなっていることとなります。よってこれらをまとめた解答例は、「妹が一人ぼっちで練習し続けていないことがわかり安心したが、自分のことを頼りに待ってはいなかったことをさみしく感じている。」などとなります。

問五は、5 頁下段 107 行目「貝殻を当てて音を聞くように、遠く聞こえる声だった。」のときの「私」の心情を説明する問題です。「貝殻を当てて音を聞く」というたとえは「私」がぼんやりとしている様子表現したものです。ここでは、妹が怪我をしたということへの驚きと、自分が練習に立ち会っていなかったことへの反省が含まれていると考えられます。解答例は「妹の怪我に驚くと同時に、一緒に練習をしなかった自分への責任を感じ、途方に暮れている。」などとなります。

問六は、脱文を本文中の適切な位置に戻す問題です。抜き出された文の中にある「漫画が読みたい」「すぐに返事をした」「別の理由」という表現がヒントになります。漫画については 4 頁下段 64 行目に出てきます。そしてすぐに返事をした場面は 5 頁上段 70 行目の「行く！」という発言であり、直後の 71 行目からの「ミーナの誘いを断ったら、…別の子を誘うようになってしまうかもしれない。」という不安が「別の理由」だったのです。よって、返事をした直後に戻すのがふさわしく、正解は『親友』の』となります。記号も字数に数えますので、鍵括弧も字数に数えます。(記入するのは 「親友」の 』です)。

問七は、空欄[A]～[D]に適切な副詞を入れる問題です。Aは、うみかが頷くようすを述べているのでイの「こくりと」、Bは、空が少しずつ暗くなるさまをいうエの「うっすらと」、Cは、回転する様をいうウの「ぐるんと」、Dは驚いた様をあらわすアの「はっと」がそれぞれ入ります。

問八は、本文の内容に合致しているものを選ぶ問題です。正解はイです。アは、「本心ではあきれている」「妹に伝わらないように必死に練習に付き合っている」などが本文には書かれていません。ウは、「妹の練習に付き合っていることがミーナに知られるのは恥ずかしい」のではなく、「優しい」とか「仲がいい」とか言われるのが嫌でかっこ悪く思ったからです。「妹との仲のよさに誇りをもっている」というのも違います。エは、台所の電気が消えていたことに気づくより前におじいちゃんとおばあちゃんから問い詰められていることや「何か大変なことが起きていることを察」するより前にうみかの入院の説明を受けていることから、これも誤りです。